



コロナ禍はリーマンよりもマシ？ リニア建設は即刻中止せよ！

2020年度第2四半期決算経営協議会

2020年度第2四半期決算経営協議会が10月29日、開催されました。本部は予め13項目の質問を用意し、質問項目について議論を行いました。今決算の純損益は、連結で1,135億円の赤字を計上し、業績予想は1,920億円の赤字と見込まれています。

会社は、運輸収入の見通しを21年3月で18年度比60%、同年6月で80%に回復すると見込んでいます。本部は、その根拠について質問したところ、会社は、リーマンショックの状況を見て判断したと答えました。しかも会社の認識は、細かい分析をせず、コロナ禍よりもリーマンの方が情勢が厳しいと分析しています。本部は「コロナ禍はリーマンと比較にならない。リモートワークなどが普及していく時代に、そのような分析は時代遅れだ」と追及しました。

また本部は、赤字決算の状況下で会社が言う「健全経営」の認識について問い質しました。会社は「利益を上げ、社員に給与を払い、株主に配当すること。赤字決算を断面的に見るのではなく、長期的に判断するもの」と回答しました。本部は「健全経営と判断するなら、年末手当も要求通り支払えることだ」と釘を刺しました。

SMTトラベルサポート事業所従業員のコロナ感染を会社が公表しなかったことについて、本部は理由を質問しました。会社は「接客に関わっていない」と理由を言いました。本部は「駅ホームに出て旅客対応の場面がある」と反論し、対立しました。

一方、リニア建設について、本部は「27年開業とすると、来年度から7,000億円ずつ投資しなければならない。建設費の捻出はどうか」と問い質しました。

会社は、「財投を活用して進めていく」としか回答できず、見直す考えは一切ありませんでした。静岡県との関係についても、非公開データを公表する意思は全くなく、強引に進めていく姿勢を露わにしました。